

# 学校いじめ防止基本方針

白河市立大屋小学校

## 1 基本方針

### (1) いじめの基本認識

- ① いじめは、どの子にも、どの学校にも起こりうるものである。
- ② いじめは、教師の目の届かないところで起きるものである。
- ③ いじめは、時として被害者と加害者が入れ替わりながら繰り返される。
- ④ 暴力を伴わないいじめであっても、場合によっては、重大事態となることがある。
- ⑤ 学級や部活動の無秩序や閉鎖性などの集団の構造上の問題から発生することがある。
- ⑥ 加害者本人だけでなく、「観衆」（はやし立てたりおもしろがったりする存在）や「傍観者」（周辺で暗黙の了解を与えている者）が存在する。

### (2) いじめの定義

児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等、当該児童生徒と一定の人間関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。

[いじめ防止対策推進法第2条の規定による]

「いじめ」に当たるかどうかの判断は、次の点を踏まえて判断すること。

- ① いじめられた児童生徒の立場に立つこと。
- ② 特定の教職員での判断ではなく、法律第22条「学校におけるいじめの防止等の対策のための組織」を活用して判断すること。

### (3) いじめと考える態様（例）

- ① 冷やかしかからかい、悪口や脅し文句を言われる。
  - ア 身体や動作について不快な言葉を言われる。
  - イ 本人の嫌がるあだ名で呼ばれる。
- ② 仲間はずれ、集団による無視をされる。
  - ア 対象の子が来ると、その場からみんないなくなる。
  - イ 遊びやゲームに意識的に入れない。
  - ウ 席を離される。
- ③ 故意にぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。
  - ア わざとぶつかられたり、通るときに足をかけられたりする。
  - イ 叩く、殴る、蹴る、つねる等が繰り返される。
  - ウ 遊びと称して対象の子が技をかけられる。
- ④ 金品を要求されたり、隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。
  - ア 恐喝、たかり、物を売りつけられる、「借りる」と称して返さない。
  - イ 持ち物を盗まれたり、隠されたり、落書きをされたり、捨てられたりする。
  - ウ 靴に画鋲やガムをいられる。
- ⑤ 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。
  - ア 使い走りをさせられたり、万引きやかつ上げを強要されたり、登下校時に荷物を強制的に持たされたりする。
  - イ 笑われるようなこと、恥ずかしいことを無理矢理させられる。
  - ウ 衣服を脱がされたり、髪の毛を切られたりする。
- ⑥ パソコン、情報端末（携帯電話、スマートフォンなど）、ゲーム機等で誹謗中傷や嫌なことをされる。
  - ア ネット上の掲示板やブログ等に誹謗中傷の情報を載せられる。

イ いたずらや脅迫メールが送られる。

ウ SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）のグループから故意に外される。

#### (4) いじめに対する措置

いじめ防止対策推進法第23条1項は、「学校の教職員、地方公共団体の職員その他の児童等からの相談に応じる者及び保護者は、児童等からいじめに係る相談を受けた場合において、いじめの事実があると思われるときは、いじめを受けたと思われる児童等が在籍する学校への通報その他の適切な措置をとるものとする。」としており、教職員がいじめを発見し、又は相談を受けた場合には、速やかにいじめ対策委員会に情報を報告し、学校の組織的な対応につなげなければならない。一人または複数の教職員がいじめに係る情報を抱え込み、学校いじめ対策組織に報告を行わないことは、法に違反していることを理解すること。また、教職員は、学校の定めた方針等に沿って、いじめに係る情報を適切に記録しておく。

いじめ対策委員会において情報共有を行った後は事実関係を確認し、組織的に対応方針を決定し、被害児童生徒を徹底して守り通すことを念頭に置いて対応する。加害児童生徒に対しては、教育的配慮の下、毅然とした態度で指導する。これらの対応については教職員全員の共通理解、保護者の協力、関係機関・専門機関との連携の下で取り組む。

いじめは、単に謝罪をもって安易に解消と捉えることができない。いじめが「解消している」状態とは、少なくとも以下の2つの要件が満たされている必要がある。ただし、これらの要件が満たされている場合であっても、様々な事情も考慮に入れながらいじめ対策委員会において判断する。

##### ①いじめに係る行為が止んでいること

被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）が止んでいる状態が少なくとも3か月継続していること。ただし、いじめの被害の重大性等からさらに延長して経過を観察する。教職員は、相当の期間が経過するまでは、被害・加害児童の様子を含め状況を注視し、期間が経過した段階で判断を行う。行為が止んでいない場合は、改めて相当の期間を設定して状況を注視する。

##### ②被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

①の期間を経て解消したかを判断する時点において、被害児童がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないことを確認する。その際は、被害児童本人及びその保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認する。学校は、いじめが解消に至っていない段階では、被害児童生徒を徹底的に守り通し、その安全・安心を確保する責任を有する。

上記のいじめが「解消している」状態とは、あくまで一つの段階に過ぎず、「解消している」状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、学校の教職員は、当該いじめの被害児童生徒及び加害児童については、解消とした後も日常的に注意深く観察する。

## 2 大屋小学校のいじめ防止等のための取組

### (1) いじめの未然防止のための取組

#### ① 日常的な観察と教育相談の実施

#### ② 児童がいじめを考える取組の実施

ア 児童会を中心とした「いじめ防止キャンペーン」や全校的な場での話し合いを実施する。

イ すべての学級で「いじめはいけない」ことや、「何がいじめなのか」について指導を行う。

ウ すべての学級で「ネット上のいじめ」をはじめとする情報モラル（ネチケツ）についての指導を行う。

※ 道徳科、情報の時間、低学年は創意の時間を使って指導する。

#### ③ 保護者との連携の強化

ア 参観日や懇談会におけるいじめ防止に関する話し合いの場をもつ。

イ 学校便り等でいじめ防止に対する、保護者との共通理解を図る。

④ いじめ対策に関する共通理解

- ア いじめ対策の方針や手だてを教職員が共通理解するための研修会をもつ。
- イ 保護者会等で、学校のいじめ対策に関する説明の場をもつ。

(2) いじめの早期発見に係る取組

① 定期的なアンケート調査の実施

- ア 児童生徒対象のいじめに関するアンケート調査を実施する。  
実施時期・・・4月、6月、8月、11月、1月、3月
- イ 保護者対象のアンケート調査を実施する。  
実施時期・・・6月、10月、2月
- ウ QUTテストの結果を全職員で共有し、活用を図る。

② 個別面談の実施

- ア 家庭訪問を実施し、家庭の様子を把握する。  
実施時期・・・6月
- イ 教育相談を実施し、個別に様子を把握する。  
実施時期・・・11月

③ 校外の組織との連携強化

- ア 地区委員との意見交換会を実施する。
- イ 児童の通学や地域での生活の様子について情報収集の機会をもつ。

### 3 いじめ防止及び対応のための組織

(1) 組織の設置

いじめ防止等の取組の推進や評価、及びいじめ発生時の対応を中核となつて行うために次の組織を設ける。

① 名称 「生徒指導委員会」

② 構成員 校長、教頭、生徒指導主事、教務主任、養護教諭、スクールカウンセラー

③ 役割

- ア 学校いじめ防止基本方針に基づく取組に関わる年間計画の作成、実施、検証、修正
- イ いじめの相談、通報の窓口
- ウ いじめの疑い等の情報、児童の問題行動などに係る情報の収集と記録、共有
- エ いじめの疑いに係る情報があった場合の組織的対応のための連絡・調整
- オ いじめや解決すべきトラブルが発生した場合の対処  
(会議の開催、情報の迅速な共有、関係児童の事実関係の把握、指導や支援体制の構築、対応方針決定、保護者への対応など)

(2) 組織での対応の留意点

① いじめられた児童への支援

- ・ 事実の確認によりいじめがあったことが確認された場合、いじめを止めさせ、再発防止のため必要に応じて心理・福祉等の専門的知識を有する者の協力を得ていじめを受けた児童及びその保護者への支援や助言を行う。
- ・ 自己否定しない励ましをする。
- ・ 本人が納得のいく自分側の非や改善点があれば改善する。
- ・ よりよい交友関係を作れるように配慮する。

② いじめた側の児童への指導

- ・ いじめているという認識がない場合が多いので、被害者の立場に立って自分の行為は「いじめである」ことを認識させ、反省させる。
- ・ 理由を優先させていじめに正当性を持たせないようにする。(いじめの行為とその理由の区

別) いかなる理由があろうともいじめの行為は絶対に許されないという毅然とした態度が必要。

③ 取り巻きや傍観者への指導

- ・ いじめに同調したり、見ていただけの児童に対しても、自分の問題として捉えさせ、いじめを受けた者の立場に立って、そのつらさや悔しさについて考えさせ、行動の変容につなげる。
- ・ 困っている友だちに温かく接することができるよう指導する。

④ 犯罪行為として取り扱われるべきいじめへの対処

いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものであると認められるときは、市教育委員会及び所轄警察署と連携して対処する。特に、いじめを受けた児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあると校長が判断し緊急性があるときには、直ちに警察署に通報し、協力を仰ぐ。

⑤ ネット上の書き込み等への対応

ネット上に不適切な書き込み等があった場合、「生徒指導委員会」において対応を協議し、関係児童から聞き取り等を行い、被害にあった児童のケア等必要な支援を行う。また、書き込みの削除や書き込んだ事案への対応については、必要に応じて、警察署や法務省人権擁護部等と連携して対応する。

#### 4 重大事態発生時の対応

(1) 重大事態に該当するいじめ

① いじめにより生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき

- ア 児童生徒が自殺を企図した場合
- イ 身体に重大な障害を負った場合
- ウ 金品等に重大な被害を被った場合
- エ 精神性の疾患を発症した場合

② いじめにより相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあるとき

※ 相当の期間とは、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とする。ただし、児童生徒が一定期間連続して欠席しているような場合には、上記目安にかかわらず、学校の判断により迅速に調査を行う

③ 児童や保護者からいじめにより上記のような重大事態に至ったという申立があったとき。

(2) 重大事態の報告

重大事態が発生した場合は、市教育委員会に迅速に報告する。

(3) 重大事態の調査

① 調査の実施

ア 重大事態の報告内容に基づき、市教育委員会が、その事案の調査を行う主体やどのような調査組織とするのかを判断する。

イ 学校が調査主体となる場合、市教育委員会から指導助言を得ながら実施し、「白河市いじめ等学校問題対策チーム」から人的派遣を得る。

ウ 市教育委員会が主体となって調査を実施することが適切と判断した場合は、「白河市いじめ等学校問題対策チーム」が主体となって調査を実施する。

エ 重大事態が発生した場合は、調査組織の指示に従いアンケート調査等を実施し、調査組織に速やかに提出する。その際、被害児童の学校復帰が阻害されないよう配慮する。

オ いじめを受けた児童及び保護者に対しては、学校として説明責任があることを自覚し、真摯に情報を提供する。その際個人情報保護に留意すること。

## 5 年間計画

月	協議会など ※ (対外的行事)	調査		配布物
		職員	児童	
4	○ 生徒指導協議会 (学期初めの生徒指導・全体計画・児童の共通理解、すこやかアンケートを受けての指導など) ※ 白河市生徒指導主事協議会 ○ 家庭訪問の実施	気になる児童の調査 緊急連絡網作成	すこやかアンケート実施 →アンケート結果の集約 ①	「よい子の一日」印刷・配布 連休時の事故防止について (保護者へ)
5	○ 緊急連絡網の作成 ○ 地区委員さんへSOSの家の確認・ステッカー配布 ○ 生徒指導協議会 (気になる児童の調査結果・事例研究)			
6	○ 生徒指導協議会 (夏休みの過ごし方についての協議) ○ すこやかアンケートを受けての教育相談 (対児童) ○ 保護者アンケート ○ QUテスト実施	校内・校外における問題点の調査→調査の集約 教育相談 (対児童) 結果→結果の集約	すこやかアンケート実施 →アンケート結果の集約 ②	
7	○ 学区内の危険箇所の点検・確認 ○ 終業式での夏休みの過ごし方についての話 ○ QUテスト結果の共有	学期の反省 →反省の集約		学区内危険箇所 夏休みの過ごし方 (児童・保護者・職員へ)
8	○ 始業式での新学期を迎えての話 ○ 生徒指導協議会 (2学期の方針、すこやかアンケートを受けての指導)	夏休み中の様子 →様子の集約	すこやかアンケート実施 →アンケート結果 ③	
9	○ 生徒指導協議会 (情報交換など)			
10	○ 生徒指導協議会 (情報交換など) ○ 保護者アンケート			
11	○ 個別懇談 (対保護者) ○ 生徒指導協議会 (冬休みの過ごし方についての協議、すこやかアンケートを受けての指導、教育相談の様子について。)		すこやかアンケート実施 →アンケート結果の集約 ④	
12	○ 冬季間における危険箇所の確認 *地区・教頭生徒指導担当者合同会議 ○ 終業式での冬休みの過ごし方についての話	学期の反省 →反省の集約 個別相談 (対保護者) の結果→結果の集約		冬休みの過ごし方 (児童・保護者・職員へ)
1	○ 始業式での新年・新学期を迎えての話 ○ 生徒指導協議会 (すこやかアンケートを受けての指導、情報交換など) ※ 白河市生徒指導主事協議会	冬休み中の様子 →様子の集計	すこやかアンケート実施 →アンケート結果 ⑤	
2	○ 生徒指導協議会 (実践の意見交換、年度の反省と次年度へ向けて) ○ 保護者アンケート			
3	○ 教育計画原稿作成 ○ すこやかアンケートを受けての指導	実践のまとめ 学期・年度末の反省 →反省の集約	すこやかアンケート実施 →アンケート結果の集約 ⑥	春休みの過ごし方 (児童・保護者・職員へ)

## 6 評価と改善

- (1) 学校評価に合わせ、いじめ防止基本方針の取組についての評価を行う。評価方法は学校評価に準ずる。
- (2) 評価の結果を踏まえ、年度ごとに次年度の改善を行う。